

国公立医科大学長
国公立大学医学部長 殿
各関係機関の長

山形大学大学院医学系研究科長
上野 義之
(公印省略)

放射線医学講座放射線腫瘍学分野担当教授候補者の推薦について (依頼)

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、放射線医学講座放射線腫瘍学分野担当教授の令和5年3月31日付け定年退職に伴い、後任の教授候補者を公募しておりましたが、公募期間を延長することとなりました。

本研究科の放射線医学講座は大講座制をとっており、放射線診断学分野、放射線腫瘍学分野から構成されており、2名の教授が連携して診療、研究、教育にあたっています。現在の放射線診断学分野は、鹿戸将史教授が画像診断全般、核医学(診断)、IVRを担当しています。

ついては、貴機関又は関係機関において、腫瘍に対する放射線治療(小線源治療および放射線同位元素内用療法を含む)を専門とし、放射線腫瘍学分野において教育・研究・臨床を担当可能な適任の方がおられましたら、下記により御推薦くださいますようお願い申し上げます。

おって、候補者の方には選考の過程で御来学若しくはweb上で、面談及び御講演いただく場合がありますので、あらかじめ御承知おき願います。

謹言

記

- 1 職種及び人員 教授 1人
- 2 所属 医学専攻放射線医学講座放射線腫瘍学分野
- 3 採用予定年月日 令和5年7月1日以降、可能な限り早い日
- 4 担当授業科目
学部担当科目：基本診療学(放射線)
大学院担当科目：放射線腫瘍学
- 5 応募要件：以下の全てに該当する者
 - (1) 医師免許所有者
 - (2) 大学または大学に準ずる機関において放射線腫瘍学の教育・研究経験を持ち、博士の学位を有する者
 - (3) 放射線治療について広い知識と経験を有し、放射線治療専門医の資格を有する者
 - (4) 粒子線治療に情熱を持って取り組み、本学東日本重粒子センターの発展に寄与できる者
- 6 待遇等
採用時にテニユア審査が行われ、可とされた場合は、採用時から直ちにテニユア取得となります。
採用時審査で不可となった場合は、テニユアトラックとして任期は5年間となり、3年目もしくは5年目に学内規程に基づくテニユア審査が行われ、可とされた場合にはテニユアが付与されます。
※本学のテニユアトラック制度については、下記をご参照ください。
<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/recruitment/20201105/>

<https://www2.id.yamagata-u.ac.jp/recruit/>

(1) 給与

国立大学法人山形大学年俸制（Ⅱ）適用職員給与規程による年俸制。
経験等を考慮し、基本年俸を決定します。

(2) 保険

文部科学省共済組合（健康保険・厚生年金），雇用保険，労災保険

7 試用期間 6か月

8 提出書類

以下の提出書類全てについて、紙媒体及び電子ファイル（電子ファイルの種類は以下に明記されたもの）を各1部提出お願いします。

- (1) 推薦書（A4判・縦型，様式任意，PDFファイル）
- (2) 履歴書（様式1，Wordファイル）
- (3) 業績目録（様式2，Excelファイル）
- (4) 公募による研究費受領状況一覧（様式3，Excelファイル）
- (5) 直近5年間における放射線治療に関する領域の症例数
（A4判・縦型，様式任意，PDFファイル）
- (6) 研究の概要と今後の展望
（A4判・縦型，2,400字以内，様式任意，PDFファイル）
- (7) 医学教育に対する取組みと抱負
（A4判・縦型，1,200字以内，様式任意，PDFファイル）
- (8) 主要論文別刷（20編以内，PDFファイル）

9 公募締切日 令和5年6月30日（金）必着

10 面接及びプレゼンテーション 日時はおってお知らせします。

11 書類提出先 〒990-9585

山形市飯田西二丁目2-2
山形大学大学院医学系研究科長宛

（封書には「放射線腫瘍学分野教授公募書類在中」と朱書のこと。）

12 問い合わせ先 山形大学飯田キャンパス事務部総務課人事・労務担当（人事）

TEL 023-628-5005

FAX 023-628-5019

メールアドレス yu-isojin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

13 その他

山形大学では全学をあげた男女共同参画の推進と、ワークライフバランスの実現に取り組んでいます。本学には、小白川キャンパス保育所，医学部保育所・病児保育室など，各キャンパスに保育支援制度があり，子育て支援が充実しています。

また，ダイバーシティ研究環境実現のために，研究継続支援員制度，学会参加時の保育支援制度はじめ，女性研究者の活躍を支援する制度を整えています。詳細については，下記URLをご覧ください。

山形大学ダイバーシティ推進室 <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>

(様式1)

履 歴 書

(令和〇〇年〇〇月〇〇日現在)

ふりがな 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
 氏 名: 〇 〇 〇 〇 〇 昭 和 4 2 年 (1 9 6 7) 〇 月 〇 〇 日 生 (〇〇歳) 性別
 (旧姓名: 〇 〇 〇 〇)

所属・職種: 〇〇大学〇〇学部〇〇学第二講座・准教授
 〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇-〇〇
 電 話: 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇 (直通) FAX: 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
 メール: 0000@00000.00.jp

現住所: 〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇-〇〇-〇〇〇号室 本籍: 〇〇〇県
 電話: 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

学 歴: 昭和61年(1986) 3月 〇〇高等学校卒業
 平成4年(1992) 3月 〇〇大学医学部医学科卒業
 平成〇〇年(〇〇〇〇) 4月 〇〇大学大学院医学研究科医学専攻入学
 平成〇〇年(〇〇〇〇) 3月 同 上 修了

免 許 等: 平成4年(1992) 4月16日 医師免許(第〇〇〇〇〇〇号)
 平成〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 厚生省〇〇〇〇〇〇資格認定医(第〇〇〇〇〇号)
 平成〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 日本〇〇学会認定〇〇医(第〇〇〇〇〇号)
 平成〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 日本〇〇〇〇学会認定指導医(第〇〇〇〇〇号)
 学 位: 平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 医学博士(〇〇大学), または博士(医学)(〇〇大学)

職 歴: 平成〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 国立〇〇病院医員(研修医)(外科)
 平成〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 同上 辞職
 平成〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部助手(〇〇学第二講座)
 平成〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 同上 辞職
 平成〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇県立〇〇病院(〇〇部)
 平成〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 同上 辞職
 平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇〇月 〇日 米国〇〇〇〇〇〇〇大学研究員(〇〇学)
 平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 帰国
 平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部附属病院助教(〇〇部)
 平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部講師(〇〇学第二講座)
 令和〇〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部准教授(〇〇学第二講座)
 現在に至る

所属学会等: 日本〇〇学会(評議員:平成〇年~現在)
 日本〇〇〇学会
 日本〇〇〇〇学会(評議員:平成〇年~現在)

社会貢献: 〇〇病院への応援診療(平成〇年~現在)
 〇〇県〇〇〇審議会委員(平成〇年~令和元年)
 〇〇〇〇高校における講演「〇〇〇〇〇(演題)」(令和〇年〇月〇日)
 ※特筆すべき活動のみを記載してください。

賞 罰: なし

氏名:

[原著]

著者名	論文タイトル	ジャーナル名 (巻・頁・年)	著者区分	責任著者の有無	インパクトファクター	ランク
1 Yamagata T, Beniya H, Sagae M	Malignant Clinical features of anaplastic gliomas without IDH mutation	Neuro Oncol 17 136-144 2019	◎	●	9.0000	Q1
(oooooooooooooooooooooooooooo, ooooooooooooooooooooooooooooo, ooo.)						
2 Yamagata T, Beniya H, Sagae M, Turuoka S	Angiographic circulation time and cerebral blood flow during balloon test occlusion of the internal carotid artery	J Cereb Blood Flow Metab 34 136-43 2018	◎		5.4900	Q1
3 Yamagata T, Beniya H, Yonezawa E, Sagae M	Risk assessment for venous thromboembolism in patients with neuroepithelial tumors : pretreatment score to identify high risk patients	Neurol Med Chir(Tokyo) 53 455-466 2017	◎			

[症例報告]

著者名	論文タイトル	ジャーナル名 (巻・頁・年)	著者区分	責任著者の有無	インパクトファクター	ランク
1 山形太郎, 紅屋花子, 寒河江光政	バルスジェットメスをを用いた蝶形骨縁髄膜腫摘出手術-血管温存能を活用して	脳神経外科 42 1019-1025 2018				

[総説]

著者名	論文タイトル	ジャーナル名 (巻・頁・年)	著者区分	責任著者の有無	インパクトファクター	ランク
1 上山洋一, 米沢恵美子, 山形太郎	脳腫瘍の最新治療法	Convection-enhanced delivery Clinical Neuroscience 31 1186-1187 2017				

[国際学会のProceeding]

著者名	論文タイトル	ジャーナル名 (巻・頁・年)	著者区分	責任著者の有無	インパクトファクター	ランク
1 Beniya H, Yonezawa E, Sagae M, Yamagata T	The role of surgery for anaplastic gliomas with IDH mutation	Neuro Oncol 15 iii223 2017		●	9.0000	Q1

[著書]

執筆者名	執筆タイトル	著書名 (頁・年)	編者名	出版社
1 Yamagata T, Beniya H, Sagae M, Turuoka S	The role of IDH1 and IDH2 mutations in malignant gliomas. In : Hayat MA, editor	Tumors of the central nervous system, vol.2 2017		Springer
2 山形太郎	緊急対応を要する脳腫瘍 神経救急診療の進め方	脳神経外科 診療プラ pp167 2014 クティス4		文光堂

[学会発表]

発表者名	発表タイトル	発表学会名 (開催地・年)
1 Yamagata T, Higashine O, Sagae M	The role of surgery for anaplastic gliomas with IDH gene mutation. (Poster)	The 4th Quadrennial Meeting of San Francisco 2017 the World Federation of Neuro-Oncology USA.
2 山形太郎, 寒河江光政	神経膠腫発生に関与する遺伝子異常 (プレナリーセッション)	第32回脳神経外科コンgres 横浜 2016

記入要領 (様式2)

- 原著, 症例報告, 総説, 国際学会のProceeding, 著書及び学会発表の順に, 各項目に分けて記載してください。

なお, 印刷中 (In Press) の論文については受理証明書若しくはDOIを添付・併記してください。
- 項目ごと英文を先, 和文を後とし, 年代の新しいものから順に記載してください。
- 具体的記載について
 - 原著, 症例報告, 総説, 著書及び国際学会のProceedingについては, 原則として記載例にならってください。

なお, 次の点にも御注意ください。

 - 雑誌の略誌名は, Index Medicus 及び医学中央雑誌に記載されているものに準じる。
 - 全著者名を記入し, 本人名には下線を付する。
 - 主要論文 (20編以内) に○印を付け, 日本語で数行以内の概要を記入してください。
 - 原著 (英文), 症例報告 (英文), 総説 (英文) のうち, 筆頭著者の論文には◎印を, 第2著者の論文には△を, 責任著者の論文には●印を付けてください。(筆頭著者かつ責任著者の場合は◎●, 第2著者かつ責任著者の場合は△●)
 - また, 著者名が2番目でも, 共同の筆頭著者である場合も◎を付けてください。
 - 2021年におけるインパクトファクターのランクがQ1, Q2であるジャーナルの場合は, Q1又はQ2を併せて付してください。
 - 学会発表については, 全国規模の国内学会 (地方会・支部会除く) での特別講演, 教育講演, シンポジウム等, 及び国際学会で筆頭者として発表したものに限ります。

記載例

公募による研究費受領状況

(過去10年間)

氏 名:

年 度	種 目 (代表・分担の別)	研 究 課 題 名	金 額 (千円)
2020	文部科学省科学研究費補助金 (萌芽) (代)	△△△△に関する研究	
	〇〇生命厚生事業団助成金 (代)	▽▽▽▽に関する研究	
2017	文部省科学研究費補助金 (基盤B) (2017年度~2019年度) (分)	□□□□に関する研究	
	厚生省〇〇〇〇研究助成金 (2015年度~2017年度) (代)	〇〇〇〇に関する研究	
	〇〇〇〇記念医学振興財団助成金 (代)	◇◇◇◇に関する研究	